はしがき

理工系の先生や技術者のなかには「私は理工系なんで，書くのは苦手でねぇ」といって，文章修行を怠っている人が少なくありません．こうした人は教え方にも工夫することを怠っている場合が多いような気がします．研究業績や開発能力のみが，大学教授や技術者の能力評価だと誤解しているようです．こうした傾向が，子供たちの理系離れの一因だといったら，言い過ぎでしょうか?

わかりやすく書くことは，書き手の義務であります．わかりやすいことと，内容が低いこととは違います．「低い内容をわかりやすく書く」ことは誰でもできそうですが，なかには「低い内容を難解に書く」人もいます．一方で，「高い内容を難解に書く」ことはなぜか当然のように世間では受け止めていますが，「高い内容をわかりやすく書く」ことこそ書き手の腕の見せ所なのです．かく言う私もどこまで「書き手の腕」を発揮できたか，それは本書を読んでくださる読者の判断にゆだねるしかありません．

この本は，C言語の入門書です．就職活動を有利にしたいと考えている人，不運にして定職がなく気持ちが落ち着かない人，あるいはワープロや表計算，インターネットでは物足りなく感じている人，漠然(ばくぜん)と少しプログラムというものを勉強してみたいと考えている人，本書はこうした人たちのための，超入門書です．つまり，入門書を読むための入門書です．もちろん独学者だけでなく，高校や専門学校，短大，大学でのプログラミング教育の教科書として使えば，さらに効果は上がります．

プログラム言語の習得を難しいと思っている人は，この本を読むと考えが変わります．変わらない人は，…たぶんいません．とにかく，わかりやすさに重点を置きました．プログラマになるつもりがないけど，ふとこの本を手に取ってしまった人，とりあえず，立ち読みで結構ですから，（書店さんに叱られるかな？），１章（わずか11ページ）を読んでみてください．そして，少し興味が持てそうなら，次は25章を読んでみてください．ここで，購入するか否かを，判断してください．

本書は25章（約190ページ）から構成されています．１章分が平均わずか7.6ページです．難易の程度や話の都合により，幅がありますが，そんなことは気にせず，読み進んでください．ただし，読むときはぜひ，パソコンを手元において読んでください．ただ，電車のなかなどで，下読(したよ)みのつもり（つまり，

あとできちんとパソコンを前にして読み返すつもり）で読んでいるときは，手元にパソコンがなくても結構です．

気の弱い人，疲れやすい人は25章（さよなら，さんかく…）→１章（なぜ，プログラミングを学ぶの？）→２章（C言語って？）→３章（文字を書く）→６章（ひと休み・Ⅰ）→４章（計算をする）…と読み進むのも，１つの読み方です．早い人ならひと月以内で終わるでしょうし，遅い人でも３か月で読み終えるでしょう．そのときあなたは…変身していることを期待します．そして，さらなる専門知識（二次元配列，関数，ポインタ，構造体など）を求めたい人は，他の本（たとえば，『教養・C言語』（共立出版）など）を参考にしてください．

本書を書くに当たって，原稿の下読(したよ)みやプログラムのチェックから校正に到るまで竹内淑子さんのお世話になりました．転勤の多忙な時期に，いつもと変わらず，誠意を込めて読んでくださいました．また，内容にふさわしいイラストでは関口由利子さんの知恵と工夫が発揮されています．さらに，松下電器産業㈱，山形大学工学部からは貴重な資料や写真等の提供を受けました．これらの方々に深い感謝の意を表します．

さらに，予想だにしていなかったことがありました．それはC言語の開発者として世界的に有名なカーニハン博士（プリンストン大学教授）が，ご自身の写真掲載に快く応じてくれた上，本書の完成にエールを送ってくださったことです．掲載されている写真（14ページ）は博士が本書のために，直接送ってくださったものです．カーニハン博士の大きなやさしさに心から感謝をいたします．

本書の企画から出版まで，南條光章社長はじめ，寿日出男取締役，岩下孝男営業部長，佐藤雅昭編集課長，松永智仁氏など，多くの方々にご相談にのっていただきました．深謝いたします．編集に当たっては，優れたセンスを持つ松永智仁さんが腕を振るってくれました．本書に，斬新さ，一段の読みやすさがあるとしたら，それは松永さんの工夫によるところが大きいものと思います．

こうして，また新しい本を出版できるのも，私を研究者として長い間，厳しく指導してくださった井上謙蔵先生（工学博士，元・東工大教授，元・東京理科大教授）のたまものと，心より感謝しております．

2007.6　　著者

本書を，三人の子どもたちと，霊界の父(ちち)・母(はは)に贈る．